

中央労福協ニュース NEWS LETTER

労働者福祉中央協議会（中央労福協）
発行人 南部 美智代
No.195
〒101-0052
東京都千代田区神田小川町3-8 中北ビル5F
Tel 03-3259-1287 URL <https://www.rofuku.net>



2030年ビジョンの実現をめざし、 ポストコロナ社会へ向けて活動方針の補強を確認



中央労福協は11月25日、第10回加盟団体代表者会議を開催し、2022年度の活動を振り返るとともに、2022年～2023年度活動方針の補強、2023年度会計予算を確認し、「福祉はひとつ」のもと2030年ビジョンの実現に向け、意思統一を図った。

ハイブリットで開催された加盟団体代表者会議は、深見正弘代議員（全労金中央執行委員長）を議長に選出し開催した。

冒頭、中央労福協・芳野友子会長は、「時代に即した運動スタイルを取り入れてポストコロナ社会を見据えた運動に取り組んでいかなければならない、『今こそ、労働者福祉運動の定番』との気概を持ち、ともに前進していこう」と呼びかけた。

コロナ禍においても奨学金制度改善の取り組みや「ろうふくエール基金」を活用した地方労福協の取り組みなどの2022年度の活動を確認し、2022～2023年度活動方針の補強においては、2025年度には2030年ビジョンが後半期を迎えることから、ポストコロナ社会に適する運動と組織運営を訴求するため、1. 諸活動の見直しや

会議体のあり方等の検証を行い、新しい運動の展開とポストコロナ社会に適する組織運営を確立。2. 生活・就労応援基金（ろうふくエール基金）を存続させ、2024年度以降の基金の取り扱いを第66回定期総会で提起することと合わせて2023年度予算を満場一致で確認した。

広島県労福協の久光会長から、今年の2022全国研修集会 in 静岡への参加をきっかけに、広島においても静岡大学の日詰学長を招き研修会を開催した際に、「SDGをはじめ社会課題解決を軸として、新たな世代を巻き込み労福協運動の広がりを探るチャンスだ」と講師から激励を受けた。そのため、ぜひ中央労福協においても『ともに運

No.195 Topics

- 2面 加盟団体代表者会議に向けて 第4回幹事会開催
- 2面 フード連合中央執行委員会で三者要請実施
- 3面 労福協が生活困窮者自立支援事業に取り組む意義を再確認 相談員・支援員のオンライン交流会を開催
- 4面 全13事業団体と対話活動を実施
- 5面 第25回Web学習会 地域共生社会づくりと相談支援
- 5面 こくみん共済coopより 新型コロナ 共済金支払い急増に全役職員一丸での対応
- 6面 厚労省要請 生活困窮者自立支援制度等の見直しを